

令和5年度 公民科「公共」シラバス

令和4年度				学校名		沖縄県立豊見城高等学校		科・コース名		普通科		クラス		Ⅰ組～8組		単位		2		学年		Ⅰ			
年間指導計画				教科名		公民科		科目名		公共		教科書名（会社名）		「新公共」（第一学習社）											
科目目標 （資質・能力）	柱書			社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、ローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																					
	知識及び技能			選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。																					
	思考力、判断力、表現力等			現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。																					
	学びに向かう力、人間性等			よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。																					
観点別評価の表記について				学習改善（指導）に生かす評価＝●は毎時間行うものであり、ここには表記しない（学習指導案には表記する）表記に用いる（表記に残す）評価＝○、そのうちペーパーテストで見取る評価＝◎として表記する。																					
学期	月	大項目 編	中項目 章	単元名		F Q（単元を貫く問い）	小単元名と考查の位置づけ		MQ（本時の問い）				評価の観点			時数									
				節									知	思	態										
一学期	4	第1編 公共の扉	第1章 公共的な空間をつくる私たち		私たちはどのように社会に関わっているのだろうか？	オリエンテーション									1										
						①社会に生きる私たち	自分自身が成長するために必要なことは何か？	◎	○		1														
	②個人の尊厳と自主・自律					公共的な空間で自由に生きていくために必要なことは何だろうか？	◎	○		1															
	③多様性と共通性					公共的な空間で相互の価値観を尊重することはなぜ必要なのだろうか？	◎			1															
	④伝統文化とのかかわり					私たちにとって伝統文化はどのような存在なのだろうか？	◎			1															
	⑤自立した主体をめざして		人はなぜ学ぶのか？			○	○	1																	
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		社会の様々な問題について選択・判断する際にどのようなことを意識するとよいだろうか？		①人間と社会のあり方についての見方・考え方	公正に判断するための考え方にはどのようなものがあるか？			○		1														
					実社会の例から考える～環境保護	二つの事例についてあなたらどのように選択判断するか？ 調べ学習→グループ発表			○	○	1														
					実社会の例から考える～生命倫理						1														
								〔一学期中間考查〕		◎	◎		1												
	第3章 公共的な空間における基本的原理		よりよい社会を実現するために必要な（5つの）原則とはどのようなものか？		①人間の尊厳と平等、個人の尊重	公共的な空間の基本的原理である人間の尊厳と平等、個人の尊重とはどのような考え方が？	◎			1															
					②民主主義と法の支配	公共的な空間の基本的原理である民主主義と法の支配とはどのような考え方が？	◎			1															
③自由・権利と責任・義務					協働作業を妨げる原因としてどのようなものがあるか？	◎			1																
④日本国憲法に生きる基本的原理					公共的な空間を形作る基本的原理は憲法にどのようにあらわれているのだろうか？	◎			1																
①私たちと法					ルールを決めるときにどのようなことに配慮する必要があるだろうか？	◎			1																
②法と基本的人権					基本的人権と法律はどのような関係にあるだろうか？	◎			1																
二学期	6	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	法や規範の意義と役割		法が公正なルールであるための基準にはどのようなものがあるか？	③自由に生きる権利と法・規範	自由権にはどのようなものがあるか？またどのように保障されているだろうか？	◎	○	○	1														
						④平等に生きる権利と法・規範	差別に対して法はどのようなはたらきをしているのだろうか？	◎	○	○	1														
						⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範	安全で豊かな暮らしのためにどのような権利が保障されているだろうか？	◎	○	○	1														
						⑥法をよりよいものにするための権利	法をよりよいものにするためにどのような人権が保障されているのだろうか？	◎			1														
						①さまざまな契約と法	なぜ契約をするのか？また契約を守ることが大切なのはなぜだろうか？			○	○	1													
						②消費者の権利と責任	かしこい消費者になるために必要なことは何か？			○	○	1													
								〔一学期期末考查〕		◎	◎		1												
	7		政治参加と公正な世論形成		民主政治を推進するために私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	①裁判所と司法	なぜ裁判所が必要なのだろうか？	◎			1														
						②国民の司法参加	裁判員制度はなぜ生まれたのだろうか？	◎			1														
						①私たちと選挙	選挙の投票はどのような意味をもっているのだろうか？	◎			1														
						②選挙の現状と課題	選挙制度の課題をどのように解決していけばよいだろうか？	◎	○		1														
						③世論の形成と政治参加	公正な世論を形成するにはどうすればよいだろうか？	◎	○	○	1														
④国会と立法		国会議員は国民にとってどのような存在だろうか？				◎			1																
9	国際社会と国家主権		国際社会はどのように成り立っているのだろうか？	⑤内閣と行政	内閣は何を基盤に国民に対する行政をおこなっているのだろうか？	◎			1																
				⑥地方自治と住民福祉	地域社会の課題に私たちの意志を反映させるにはどうしたらよいだろうか？	◎			1																
				①国家と国際法	私たちが暮らす国際社会はどのようにしてなりたっているだろうか？	◎			1																
				②国境と領土問題	国教とは何か？なぜ多くの領土問題が存在するのだろうか？	◎			1																
				③国際連合の役割と課題	国際社会の平和と安定を維持するために国連はどのような取り組みを行っている	◎			1																
				①平和主義と安全保障	日本の平和はどのように守られているのだろうか？	◎			1																
三学期	10	日本の安全保障と防衛		憲法の下、私たちはどのような責任を果たすべきだろうか？	②日本の安全保障体制の変容	国際社会の変化するなかで日本の安全保障はどうなっているのだろうか？	◎			1															
					③核兵器の廃絶と国際平和	軍縮に向けて努力するためにはどのようなことが大切だろうか？	◎			1															
												〔二学期中間考查〕		◎	◎		1								
					国際社会の変化と日本の役割		①今日の国際社会	今日の国際社会は、どのような特徴をもっているのだろうか？	◎			1													
							②人種・民族問題と地域紛争	なぜ、人種・民族を問題とした紛争がおきるのだろうか？	◎			1													
							③国際社会における日本の役割	国際平和のために日本には何ができるだろうか？	◎	○	○	1													
	11	雇用と労働問題		安心して働くためにはどのような環境が必要だろうか？	①私たちと経済	私たちはどのようにして経済的意思決定をしているのだろうか？	◎			1															
					②労働者と権利	労使双方の合意があればどのような労働契約も認められるのだろうか？	◎	○	○	1															
					③労働環境と課題	日本の労働問題にはどのようなものがあるだろうか？その背景は？	◎			1															
					①日本経済のこれまでとこれから	戦後、経済発展とともに働く経済環境はどのように変化したのだろうか？	◎			1															
					②技術革新の進展	今後、働き手に求められるものはどのように変わるのだろうか？	◎			1															
					③現代の企業	企業が社会に対して果たすべき役割と責任は何だろうか？	◎			1															
12	社会の変化と職業観		変化していく社会の中で将来の働き方をどのように考えていけばよいだろうか？	④中小企業の現状と役割	私たちが起業し、活躍するには何が必要だろうか？	◎			1																
				⑤日本の農林水産業	農林水産業の課題とその克服のためにはどのような視点が必要だろうか？	◎			1																
											〔二学期期末考查〕		◎			1									
				市場経済の機能と限界		①市場経済と経済運営	資本主義経済において、政府は経済にどのように関わっているのだろうか？	◎			1														
						②市場のしくみ	市場において価格はどうように決まるのだろうか？	◎	◎		1														
						③経済発展と環境保全	公害から国民を守るために国や企業に求められるような取り組みは何だろうか？	◎			1														
1	金融のはたらき		金融市場はどのような役割をはたしているだろうか？	④国民所得と私たちの生活	国民の経済の豊かさはどのようにはかれるのだろうか？	◎	○		1																
				⑤経済成長と国民の福祉	経済成長と豊かさを両立させるためにはどのような工夫が必要だろうか？	◎			1																
				①金融の意義と役割	金融はどのような役割を果たしているだろうか？	◎	○		1																
				②金融のいま	社会の変化は金融にどのような役割を与えたのだろうか？	◎	○		1																
				①財政のしくみと租税	なぜ政府は経済活動をするのだろうか？租税において大切なことは？	◎	○		1																
				②日本の財政の課題	持続可能な財政にする為には、どのような課題を克服する必要があるか？	◎			1																
2	財政の役割と社会保障		財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていけばよいだろうか？	③社会保障と国民福祉	社会保障制度はなぜ必要なのだろうか？	◎			1																
				④これからの社会保障	持続可能な社会保障制度にするためにはどのような課題があるだろうか？	◎			1																
				①国際分業と貿易	貿易はどのような方向に向かっているのだろうか？	◎			1																
				②国際収支と国際経済体制	日本の国際収支はどのようになっているのだろうか？	◎			1																
				③外国為替相場の動き	為替相場の変動は私たちの生活にどのような影響を及ぼすのだろうか？	◎			1																
				④グローバル化する経済	経済のグローバル化は日本経済にどのような影響をおよぼしているのだろうか？	◎			1																
2	経済のグローバル化		すべての人が幸福に暮らすために貧困や格差の問題をどのように乗り越えたいだろうか？	⑤地域的経済統合	地域的経済統合が進むことは人々の生活に幸福をもたらすことにつながるのだろうか？	◎			1																
				⑥国際社会における貧困や格差	発展途上国の経済成長のためには何が必要だろうか？	◎			1																
				⑦地球環境問題	様々な地球環境問題に対して国際的にどのような取り組みがされているだろうか？	◎			1																
				⑧資源・エネルギー問題	持続可能な社会に適したエネルギー開発、利用方法とは？	◎			1																
				⑨国際社会のこれから	人口問題や食料問題に対してどのような国際的取り組みがおこなわれているだろうか？	◎			1																
											〔学年末考查〕		◎	◎		1									
3	第3編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち		現代の諸課題の解決に向けて何ができるだろうか？	①排出権取引を考える～地球環境問題	温室効果ガス排出量制限を実現する排出権取引のしめしはどのようにあるべきだろうか？																			
					②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題	日本のこれからのエネルギーはどうあるべきだろうか？																			
					③ゲノム編集を考える～生命倫理	ゲノム編集の課題にはどのようなものがあるだろうか？																			
					④インターネットによる投票を考える～情報	I C Tを活用し、人々の投票行動を変えることは可能だろうか？																			
					⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題	フェアトレードにはどのような特徴や課題があるだろうか？																			

「高等学校 倫理」（倫理 705）についてのシラバス案

科目	倫理	単位	2	学年	2	
使用教科書	高等学校 倫理(第一学習社)			副教材等	倫理ノート（第一学習社） 最新倫理資料集（第一学習社）	

学習の到達目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方					
	第1章 人間の心と自己形成					
	1 青年期の課題と自己形成 1. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成	■青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに、様々な人間の心のあり方を理解する。 ・人間の特質とは何かを理解している。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。 ・人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 ・様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 ・様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。	○	○		・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 人間の存在や価値と宗教					
5	1 ギリシアの思想 1. 哲学の形成 2. 哲学の確立 3. ギリシア思想の展開	■古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察している。 ・「ソクラテスのことば」から、「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 ・ソクラテスの言行やプラトン、アリストテレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
6	2 ユダヤ教とキリスト教 1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展	■キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 ・原罪や恩寵の思想に見られるキリスト教の人間観について、自己の課題と重ね合わせて思索している。 ・イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	3 イスラーム 1. イスラーム	■イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 ・『クルアーン』について、日常の生活で行うことまで規定していることを読み取れている。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感している。 ・ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	4 仏教 1. インドの思想文化 2. 仏教の誕生と展開	■仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・インドの人々は、どのような死生観をもっているかを理解している。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 ・日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 ・仏教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5 中国の思想 1. 儒家の思想 2. 儒家以外の諸流派	■儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・中国の人々の自然観・人生観を理解している。 ・仁や礼の言説を取り上げ、人間についての見方や、望ましい人間関係を築きながらどのように社会生活を送るかについて、自己の課題と結び付けて思索を深めている。 ・儒教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	6 宗教や芸術 1. 宗教や芸術	■人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。 ・人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 ・芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。 ・芸術家が作品に込めた問いかけなどを、社会背景を踏まえて主体的に考えている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第3章 人間のあり方と社会					
7	1 人間の尊厳 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 人間性の探究	■人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。 ・ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ・ルネサンス期の絵画などから、ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
9	2 科学革命の時代と自然観 1. 科学革命の時代 2. 経験論と合理論	■人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。 - 近代の科学は、どのような背景から生まれてきたのかを理解している。 - ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 - ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 - 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	3 自由で平等な社会の実現 1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 3. 人倫と自由の実現 4. 功利主義の思想 5. 実証主義と進化論	■社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。 - 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察している。 - 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 - カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。 - 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察している。 - ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 - 功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげて思索している。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	4 人間性の回復と主体性の確立 1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. ブラグマティズムの思想	■社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、ブラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。 - 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。 - 主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 - 略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を主体的に学んでいる。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
10	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想					
	1 現代の思想と人間像 1. 心の深層と無意識 2. 生の哲学と現象学 3. フランクフルト学派 4. 構造主義・言語哲学 5. 他者と偏見 6. 正義と社会	■現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 生の哲学と現象学、構造主義・言語哲学など、現代思想の特徴を理解している。 - 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察している。 - ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	2 生命への畏敬と社会参加 1. 生命への畏敬とボランティア	■社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解する。 - 実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解している。 - 様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。 - 思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を実践した生き方をつかむ。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚					
	1 日本固有の思想 1. 日本の風土と伝統	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解する。 - 古来の日本人の心情と考え方は、日本の風土で生活する中で育まれたことを理解している。 - 日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方、望ましい対人関係を考察している。 - 古来の日本人の心情と考え方をもとに、国際社会に生きる	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11		日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。				
	2 外来思想の受容 1. 日本仏教の展開 2. 伝統思想の成熟 3. 日本儒学の展開	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、外来思想の受容との関係を理解する。 - 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを理解している。 - 法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 - 日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をもとに検討する。 - 外来思想の受容をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	3 町人思想のめざめと 庶民思想 1. 国学の成立 2. 庶民の思想	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解する。 - 義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解している。 - 義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかを考察している。 - 国学の思想と私たちの考え方とで、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを考察している。 - 国学や江戸時代の庶民の思想をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
12	4 西洋思想との出会い 1. 幕末の思想 2. 明治の啓蒙思想 3. 日本社会とキリスト教 4. 近代的自我の確立 5. 社会思想の展開 6. 近代日本の思想課題	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、西洋思想の受容との関係を理解する。 - 幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたのかを理解している。 - 日本の近代思想がどのように展開していったのかを理解している。 - 日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。 - 日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
1	第2編 現代の諸課題と倫理					
	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理					
	1 生命の問題と倫理課題 1. 生殖医療と遺伝子操作 2. 脳死臓器移植と再生医療 3. 自己決定の尊重と末期医療	■生命との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する。 - 生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義を思索している。 - 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 - 生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査
	2 地球環境の問題と倫理的課題 1. 地球環境問題 2. 生物多様性と自然環境 3. 予防原則と世代間倫理	■地球環境との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する。 - 人間の生命は自然の生態系の中で植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、共存関係が大切であることについて思索している。 - 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 - 地球環境をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
2	3 科学技術の進展と倫理的課題 1. 高度情報通信技術の進展と私たちの生活 2. 先端科学技術の利用と私たちの生活	■科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・科学技術の進展を踏まえ、AIをはじめとした先端科学技術の利用と人間生活と社会のあり方について思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・科学技術をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理					
	1 福祉の向上と倫理的課題 1. 多様性のある社会 2. さまざまな他者との協働 3. 地域共生社会と家族	■福祉について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・ボランティア体験など福祉に関わる多様な体験をもとに、思索を深めている。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
3	2 文化と宗教の影響と倫理的課題 1. 文化や宗教の理解と現代世界 2. 異文化理解と多文化共生	■文化と宗教について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	3 国際平和と倫理的課題 1. 持続可能な社会の形成 2. 世界のなかの日本人としての生き方	■国際平和について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・平和について、人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

令和5年度 『政治・経済』 シラバス

教科(科目)	単位数	学 年
公 民 (政治経済)	2	3 年 (特選文系) (普通コース)

1. 公民科の目標 (学習指導要領)

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

2. 政治経済の目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3. 政治経済の目標の観点の趣旨

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 資料活用 of 技能	d 知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見いだし、その本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する事柄や、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

4. 教科書及び補助教材

教科書：高等学校 新政治経済(第一学習社) 183 第一政経 310

サブノート：新政治・経済ノート[教科書準拠]

5. 授業方法と形態

- ①オリエンテーションでは、学習計画・評価方法を説明する。授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ②講義形式だけでなくグループ活動やペア学習や発表、ディベートなどの作業的、体験的な学習を取り入れ、自分の主張を根拠に基づいて表現する学習活動を取り入れる。
- ③教科書や資料集だけでなく、新聞・ビデオ教材など各種メディアを活用し、現代の社会について、生徒の関心が高まるよう工夫を行う。

6. 評価方法

②思・判・表をどの材料で測る？

材料 観点	定期考査	発表 (個人・グループ)	授業提出物	授業態度	課題 (R 80)	比率(%)
関・意・態		5		5	5	15
思・判・表	5		5		5	15
技 能	10		5			15
知識・理解	45	5	5			55
合 計	60	10	15	5	10	100

7. 進捗予定表

学 月	単元名	学習のねらい・留意点	評価 方法
1 学 期	4月 第1編現代の政治 第1章現代国家と民主政治 1 民主政治の成立 2 民主政治の基本原則 3 議会制民主主義と各国の政治制度	・「政治経済」を学ぶことの意味について考える ・民主政治の本質について考察し、政治と私たちとの生活との関わりについて気づかせる。 ・基本的人権が、どのようにして確立され、広がっていったかを理解させながら、現代の政治の特質について考察させる。	中間考査 範囲 授業態度 小テスト R80
	5月 第2章日本国憲法と基本的人権 1 日本国憲法の成立 2 自由に生きる権利(1) 3 自由に生きる権利(2) 4 平等に生きる権利 5 社会権と参政権 6 新しい人権 第3章日本の政治機構と政治の課題 1 国会 2 内閣と行政機能の拡大 3 裁判所	・日本国憲法の成立過程を理解させながら、日本国憲法のもつ意味について考察させる。また、三大原理についても理解させる。 ・日本国憲法の全体像にふれさせながら、平和や人権などの問題を、憲法制定当時から現代にかけて考えさせる。 ・国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれさせながら、主権者としての政治に対する関心を高めさせる。また、日本国憲法下での政治機構について理解させる。 ・内閣と国会との関係を考慮しながら、行政改革について考察させる。 ・国との地方の関係から、地方自治のあり方について考察させる。	提出課題 定期考査
	6月 4 地方自治 5 政党政治と選挙 6 世論と民主政治 第4章現代の国際政治 1 国際社会と国際法 2 国際連合と国際協力 3 第二次世界大戦後の国際政治 4 冷戦終結後の国際政治 第5章日本の平和主義と国際平和 1 平和主義と自衛隊・日米安保条約 2 冷戦終結後の安全保障と平和主義 3 国際平和と日本の役割	・選挙制度について学ばせ、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識させ主権者としての政治参加のあり方について考察する。・マス＝メディアの果たす役割と問題点を理解させながら、世論の果たす役割が大きいことについて認識させる。・国際政治と国内政治の違いを理解させる。また、先進国と発展途上国などのように、国家間に格差が生じていることに気づかせる。 ・冷戦終結後の国際社会の動向について理解させる。 ・国際連合の役割を理解させる。また、現実には国際連合はどのような問題を抱えているのかについても把握させる。 ・国際平和と人類の福祉に向けて、日本が果たすべき役割について考えさせる。その際、広い視野から考えさせることをねらいとする。	期末考査 範囲 授業態度 小テスト R80 提出課題 定期考査
	7月 第2編現代の経済 第1章 経済社会の変容 1 資本主義経済の成立と発展 2 現代の資本主義経済 3 社会主義経済の形成と変容 第2章現代経済のしくみ 1 市場のはたらき 2 現代の企業 3 経済成長と景気変動 4 金融の役割 5 財政の役割と租税	・資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較させ理解させる。 ・経済社会において、企業はどのような役割を果たしているのかについて考えさせる。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解させる。 ・経済活動の目的が国民の福祉の向上にあり、その実現のためには経済成長と景気の安定が必要であることに気づかせる ・財政の基本的なしくみや役割について理解させる。 ・日本の財政の現状を理解させ、経済活動のあり方と福祉の向上について考察させる。	中間考査 範囲 授業態度 小テスト R80 提出課題 定期考査
	9月 10月		

3 学 期	11 月	第3章現代の日本経済と福祉の向上 1 日本経済のあゆみと現状 2 日本の公害問題 3 労働関係の改善 4 社会保障の役割 第4章現代の国際政治 1 国際経済のしくみ 2 国際経済の動向（1） 3 国際経済の動向（2） 4 発展途上国の諸問題 5 世界経済のなかの日本	・インフレ、デフレなどの基本的な用語を正しく理解させる。 ・金融機関をはじめ、日本経済が抱えている問題について認識させる。 ・労働問題や社会保障に関する基本的な事項を理解させる。 ・国際経済に関する基本的な概念や理論を理解させながら、国際経済における日本が果たすべき役割について考察させる。 ・国際収支の基本的な構成を理解させる。 ・為替相場の変動が、国際経済にどのような影響を与えるのか認識させる。 ・国際協調のために、どのような国際機関が存在し、どのような役割を担っているのか、把握させる。 ・貿易の自由化が経済に大きな影響を与え、それによって、地域的経済統合の動きなどがみられることを認識させる。	期末考査 範囲 授業態度 小テスト R 8 0 提出課題 定期考査
	1 月 ～ 2 月	第 3 編現代社会の諸課題 1 情報化の進展と市民生活 2 住民生活と地方自治 3 大きな政府と小さな政府 4 産業構造の変化と中小企業 5 農業と食料問題 6 消費者問題と消費者保護 7 公害防止と環境保全 8 労使関係と労働市場 9 少子高齢化と社会保障 10 地球環境問題 11 人種・民族問題 12 核兵器と軍縮 13 国際経済格差の是正と国際協力 14 経済摩擦と外交 15 国際社会における日本の役割	・現代の日本が抱える課題を、政治と経済との関連に留意させながら、さまざまな角度（視点）から考えさせ、望ましい解決のあり方を考えさせる。 ・現実社会の諸課題は、政治と経済が深く結びついていることを理解させる。 ・国際社会における課題は複雑なものであり、そのため、国際的な視点から追究させながら、日本の役割について考察させる。 ・国際社会の課題は、政治・経済の枠をこえたものが多く、国際関係に大きな影響を与えることを認識させる。	学年末 考査範囲 授業態度 小テスト R 8 0 提出課題 定期考査

令和5年度 応用現代社会（学校設定科目）シラバス

科目名：応用現代社会（学校設定科目）

対象学年：3学年（特進、選抜クラス）

単位数：2単位

使用教材

資料集：帝国書院『ライブ！2022 公共、現代社会を考える』

ワークシート、新聞、映像教材

評価方法

1学期：小テスト、定期考査

2学期：小テスト、定期考査、調べ学習、発表

3学期：小テスト、定期考査

材料 観点	定期考査	発表 (個人・グループ)	授業提出物	授業態度	課題 (R80)	比率(%)
関・意・態		5		5	5	15
思・判・表	5		5		5	15
技 能	10		5			15
知識・理解	45	5	5			55
合 計	60	10	15	5	10	100

評価は4つの項目で行っていきます	①関心・意欲をもって授業に取り組んでいるか	②考え、判断し、自分の考えを表現出来ているか	③どの程度技能が身についているか	④どの程度理解できているか
	授業に積極的に参加し、個人やグループの意見をまとめ、他者の意見を聞くことができる。	基礎的な社会事象に関する「問い」を通して、「広い視野」で考え、表現することができる。	社会的事象について、資料を読み取り、活用することができる。	授業で学んだことをしっかり理解し、単元テストや各考査に反映することができる。

授業の進め方

ワークシートを配布し、語句の確認や、時事問題についてペアやグループ討議を通して「問い」を持ったり、考えを相互にかかわり合わせる授業展開をしていく。